

# 原子力空母の交代を問う3,000人市民アンケート ご協力ありがとうございました

「原子力空母の母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」は、横須賀配備の原子力空母の交代に関して、「3000人市民アンケート」を実施しました。集まったアンケートは4230枚。3000人の目標を大きく超えました。

アンケートの多くは駅頭での聞き取りです。4、5、6月の3ヶ月間で22回、延べで300人以上が参加。初めて参加された方も多く、キャンペーン行動として、広がりが生まれました。

集計結果は、原子力空母配備16年の時間の重みが色濃く出た数値となりました。配備に関しては、「どちらとも言えない」が最も多く46.1%でした。反対(30.1%)は

①横須賀に原子力空母が配備されていることを知っているか。

知っていた70.9%

知らなかった  
29.1%

②原子力空母に関する米軍・日米政府・横須賀市の安全対策をどう思うか。

十分  
16.9%

不十分  
34.3%

わからない  
48.8%

③横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思うか。

賛成  
23.8%

反対  
30.1%

どちらともいえない  
46.1%

賛成(23.8%)を上回りました。

自由記入では、1000人を超える方からコメントを頂きましたが、「どちらとも言えない」と答え方のコメントで最も多かったのは、「安全性の確保・原子力に不安」でした。

「賛成」と答えた方も含めたコメ

ント全体でも、最も多いのは「安全性の確保・原子力に不安」。

「成功させる会」では、今回のアンケート結果を踏まえて、横須賀市や米海軍、日本政府へ、より積極的な情報公開、安全対策の強化を求めています。(2024.9.10)

「タウンニュース」横須賀・三浦(2024.8.30)

原子力空母配備

賛否「どちらとも」が46%

市民団体が調査報告

米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母が今年中に交代することに関して、「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」は8月24日、配備の是非を問うアンケート調査の結果を報告する集会を横須賀市総合福祉会館で開いた。賛否については「どちらとも言えない」が46.1%で最も多く、賛成は23.8%、反対は30.1%だった。

アンケートは今年4月から6月の間に街頭インタビューや調査会社などを利用して実施。内容は①横須賀に原子力空母が配備されていることを知っているか②米軍・日米政府・横須賀市の安全対策は十分か③横須賀への配備についてどう思うかの3項目を問うもので、合計4230人(うち横須賀市民3614人)が回答した。

「判断材料が不足」配備の賛否について問う③では、半数近くが「どちらともいえない」と回答。これに対し同会共同代表の呉東正彦弁護士はその中の「判断材料が不十分」とする意見に着目した。米国内の造船所では放射能漏れなどの事故が発生している一方で、日本国内でのトラブルは情報が公開されずブラックボックス化していることを踏まえ、「市民に危険性が周知されにくい構造となっている」と分析した。

また、①では10代の78.2%が「知らなかった」と回答(全体では29.1%)。呉東氏は「原子力空母に関する市の防災対策や教育も限定的で、むしろ観光資源化しようとする政策が安全上の問題を無関心化させているのではないかと」と市の姿勢に疑問を投げかける。横須賀に初めて配備された2008年頃は住民投票直接請求運動に当時の市長や議会も関わり、社会問題として議論されていたが、配備から16年経ったことで、「母港化が既成事実化しているのでは」という記述も見られた。

呉東氏は「身近な場所に原子力炉があることを、特に若い世代に知ってもらう、考えてもらうための活動を続けていきたい」と今後の方針を示した。

## 2024キャンペーン

# アンケートご協力ありがとうございます

### 「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」について

●2006年、住民の安全に影響を及ぼす原子力空母の母港化は、市民の声を聞いた上で判断すべきとして、横須賀市に対し住民投票の実施を求めるために発足。2度の住民投票条例の直接請求を行う。2008年の原子力空母母港化後も継続して、市・県・国に対し、母港化の是非と安全性について問い続けています。



#### 連絡先

〒238-0008 横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階  
横須賀市民法律事務所方 電話:046-827-2713

## 原子力空母ひとくち知識

### 25年分の死の灰

原発の燃料交換は1年に1回。溜まる死の灰は最大1年分です。原子力空母の燃料交換は25年に1回。溜まる死の灰は最大25年分です。

### 爆弾やジェット燃料も

原発周辺には、爆発物貯蔵庫や燃料タンクを作ることができません。しかし原子力空母は、艦内の至近距離に、大量の爆弾やジェット燃料を積んでいます。

### 高濃度の燃料棒

原発の核燃料のウラン235の濃縮度は3〜5%。これに対して、原子力空母の核燃料ウラン235の濃縮度は約95%で、原爆並の高さです。

## 原子力空母ジョージ・ワシントン

### 3.11 原子力空母は

星条旗新聞は「水位は6フィート(183cm)下がり、揺れは非常に強くて船を埠頭岸壁から離すほどだった」と乗組員の証言を伝えています。大規模地震が基地を直撃すれば、原子力空母の原子炉も決して安全ではありません。

### 動かなかった非常用復水器

米海軍は、原子力空母には電力に頼らず自然対流で原子炉を冷却できる能力があると言います。非常用復水器と呼ばれるものですが、福島原発1号機にも同様の装置がありました。しかし、メルトダウンを食い止めることはできませんでした。

### 安全審査なしで配備

原発は日本政府の厳しい安全審査を受けています。それでも事故は起きました。原子力空母は、その安全審査すら受けていない、まったくのノーチェック状態です。

問題は一度も市民の意見が聞かれないまま原子力空母の配備が続いている、ということです。3,000人市民アンケートによって集まった「市民の声」を集計し、横須賀市・日米両政府に届けます。

2024年9月27日作成